

平成25年度
修了生による教育評価報告書

平成26年7月

香川大学大学院地域マネジメント研究科

目次

総括	3
第1章 修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要	
1. 調査の目的	5
2. 調査実施期間	5
3. 調査対象	5
4. 調査の内容	5
5. 集計方法	5
第2章 調査結果について	
1. 回答者の属性	6
2. 分析	
1. 在学当時の状況について	
(1) 在学中の出席状況について (問1)	8
(2) 在学中勉強時間 (問2)	8
(3) 仕事で役立ったと思う科目 (問3)	9
(4) 仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目 (問4)	9
(5) 土曜日の開講について (問5)	10
(6) プロジェクト研究について (問6)	11
(7) 社会人組織、社会人組織以外からの支援について (問7,8)	11
(8) 学部学生の就職について (問9)	12
(9) 自習室、教室の環境について (問10,11)	12
2. 修了後の効果について	
(1) 大学院教育で身についた能力と現在の仕事に必要な能力 (問12)	13
(2) 学んだことに満足しているかについて (問13)	16
(3) 愛着について (問14)	17
3. 現在の状況について	17
(1) 自己研修について (問16)	17
(2) 地域活動について (問17)	17
(3) 研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて (問18,19)	18
(4) 後期(10月)入学の必要性について (問20)	19

総 括

- 平成 25 年度修了生 34 人中 30 人 (88.2%) から回答があった。
- 平成 25 年度修了の 9 期生の属性の特徴は以下の通りである。
 - ・ 20 歳代、30 歳代の若い年齢層が多くなっている。
 - ・ 自宅は 6 割以上、勤務地は 7 割以上が高松市内である。
 - ・ 就業状況は、正規雇用が約 7 割である。
 - ・ 入学時の職種は、保健・衛生・医療関係が一番多くなっている。
 - ・ 役職は、若い年齢層が増えたため、主任が多くなっている。
- 在学中の出席状況は、すべての授業に出席した場合を 100%として平均 88.97%であった。前回アンケート調査(平成 24 年度修了生対象)では 88.96%であり、ほとんど変わらない。
- 週当たりの勉強時間は、13.90 時間であった。前回アンケート調査では、10.38 時間であり、3 時間ほど増加している。
- 仕事で役立ったと思う科目は、「組織行動論」「プロジェクト研究」「人事管理論」「経営管理論」「統計分析」と回答した人が多い。
仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目は、「組織行動論」「統計分析」「四国経済事情」「費用便益分析」と回答した人が多い。
- 土曜の開講は、必要 (76.7%)、ある程度必要 (23.3%) で合計 100%となり、全員が必要と回答した。
前回アンケート調査では、必要 (80.87%)、ある程度必要 (15.4%) で合計 96.2%であり、土曜日開講の必要性が高まっている。
- プロジェクト研究については、「満足している」(33.3%)、「ある程度満足している」(46.7%) で合計が 80.8%となり、ある程度の満足度を得ている。
前回アンケート調査では、「満足している」(19.2%)、「ある程度満足している」(53.8%) で合計が 73.0%であったので、満足度が若干減少している。
- 社会人組織 (所属組織) からの支援を受けた人は約 36.4%、社会人組織以外 (奨学金など) からの支援を受けた人は 15.0%と、あまり多くない。
- 学部からの進学生による、就職についての対応についての満足度は、「満足している」から「不満である」まで、ほぼ均等に意見が分かれている。
- 環境 (自習室、教室) については、教室は「満足している」(33.3%)、「ある程度満足している」(56.7%) で合計が 90.0%となり、9 割が満足と回答している。
自習室は「満足している」(30.0%)、「ある程度満足している」(60.0%) で合計が 90.0%と

なり、こちらも9割が満足と回答している。

前回アンケート調査では、教室は「満足している」(38.5%)、「ある程度満足している」(57.7%)で合計が96.2%、自習室は「満足している」(30.8%)、「ある程度満足している」(34.6%)で合計が65.4%であったので、自習室の耐震工事が終わり、満足度が向上している。

- 大学院教育で身についた能力は、「物事に進んで取り組む力」「現状を分析し目的や課題を明らかにする力」「目標を設定し確実に行動する力」「課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力」「意見の違いや立場の違いを理解する力」「幅広い知識や教養」と回答した人が多かった。「物事に進んで取り組む力」「現状を分析し目的や課題を明らかにする力」「課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力」は、現在の仕事で必要な能力と一致している。
- 研究科で学んだことについての満足度は高く、「満足している」(36.7%)、「ある程度満足している」(50.0%)と、合計86.7%が満足と回答している。
前は、「満足している」(53.8%)、「ある程度満足している」(42.3%)と、合計96.2%であり、満足度が10%近く減少していることが分かる。
- 研究科に愛着があるかどうかは、「非常にある」(30.0%)、「ある程度ある」(60.0%)で「愛着がある」という回答が90.0%であり、前回の92.3%とほとんど変わっていない。
前回に引き続き、非常に高い。
- 講演会、シンポジウムに参加希望が多、「一般公開」がよいとする意見が多い。
- 前回と同様、後期入学が必要という回答は、「非常に必要」(13.3%)、「ある程度必要」(20.0%)合計33.3%と少ない。

第1章 修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要

1. 調査の目的

この度、本研究科の平成25年度修了生を対象に大学教育評価に関するアンケート調査を実施し、その調査結果を「修了生による大学院教育評価報告書」に取りまとめた。

この調査の目的は、本研究科の提供する専門職大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本研究科に対する要望等を把握することを目的として実施することである。

2. 調査実施日

平成26年3月24日（月）修了後

3. 調査対象

（1）調査対象と調査方法

調査対象は、平成25年度地域マネジメント研究科の修了生全員である。修了式、学位授与式の終了後、修了生にアンケートに記入してもらい、その場で回収した。

（2）回収数及び回収率

アンケート調査の回収数は、平成25年度修了生34人中、30人から回答があり、回答率は88.2%であった。

4. 調査の内容

アンケート調査の質問項目は、Ⅰ.在学当時の状況について、Ⅱ.在学当時の支援関係について、Ⅲ.修了後の効果について、Ⅳ.現在の状況について、Ⅴ.香川大学、本研究科へのご要望、Ⅵ.あなた自身について、の6項目についてである。詳しい内容は第3章の資料編を参照願いたい。

5. 集計方法

集計方法は、各問ごとに単純集計を行い、合計数とその割合（小数点第1位未満を四捨五入）を%で表示した。なお、回答にあたって、未記入（無回答）と答えたものは、集計数に含めないこととした。そのため、問ごとに集計総数が異なっている。

なお、各問ごとの集計結果は、第3章資料編に綴っているので、参照願いたい。

第2章 調査結果について

1. 回答者の属性

問 21～問 28 は、回答者（修了生）の入学時の年齢、住所所在地及び勤務地、就業状況、職種等を問うたものである。集計結果については、前述したとおり無回答を除いているため、集計総数が問ごとに異なっているのをご注意願いたい。

(1) 入学時の年齢（問 21）

入学時の年齢については、30歳代(37.0%)が最も高く、以下、20歳代(29.6%)、50歳代(22.2%)、60歳以上(7.4%)と続いている（図1を参照）。

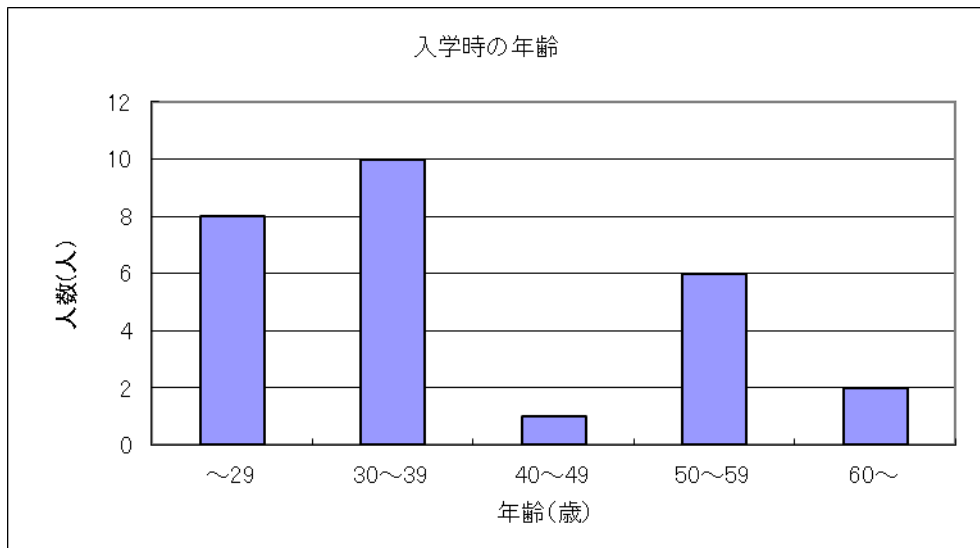


図1 入学時の年齢

(2) 入学時の自宅所在地及び勤務地（問 22）

研究科入学時における自宅所在地は、高松市 64.3%（18人）で、高松市以外の香川県 21.4%（6人）、岡山県 2人（7.2%）、東京都 1名(3.6%)、福岡県 1名(3.6%)となっている。

勤務地は、高松市 71.4%（20人）で、高松市以外の香川県 10.7%（3人）、東京都 1名(3.6%)、福岡県 1名(3.6%)となっている。

(3) 入学時の就業状況、職種、役職について（問 23,24,25）

問 23 は本研究科の修了生が入学時に正規雇用で働いているか、非正規雇用で働いているかを問うたものである。正規雇用が 69.2%（18人）、非正規雇用が 19.2%（5人）、働いていないは 11.5%（3人）である。

職種は、公務員、販売・サービス関係、保健・衛生・医療関係がいずれも 16.7%（4人）と一番多く、続いて、建設・機械関係 12.5%（3人）が多く、以下、農林・水産関係、商社・金融関係が 8.3%（2人）と続く（図2を参照）。

役職は、主任 20.0%（3人）が一番多く、次に課長 13.3%（2人）が多かった。他に、代表取締役、課長代理、部長、主査、医療法人理事、支店長代理が 6.7%（1人）と続いた。若い年齢層が増えていることが影響していると考えられる。

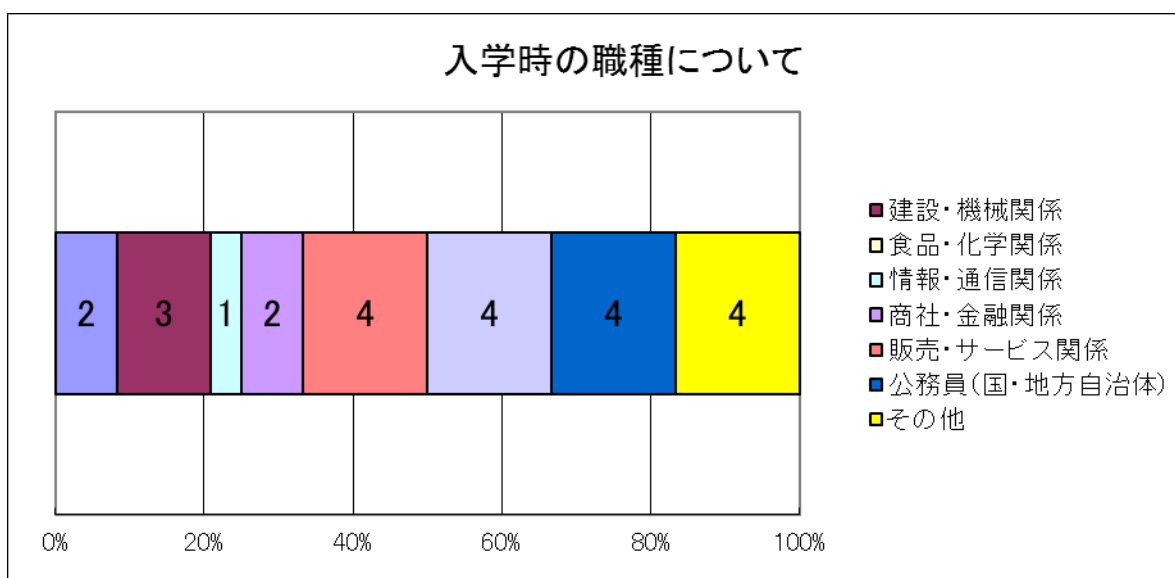


図 2. 入学時の職種について

(4) 現在の就業状況、職種について (問 26,27,28)

問 26 は本研究科の修了生が現在、正規雇用で働いているか、非正規雇用で働いているかを問うたものである。正規雇用が 74.1% (20 人)、非正規雇用が 22.2% (6 人) である。

職種は、販売・サービス関係 20.8% (5 人) が一番多く、続いて、保健・衛生・医療関係、公務員が 16.7% (4 人) が多く、以下、建設・機械関係 12.5% (3 人) と続く (図 3 を参照)。

役職は、課長 23.5% (4 人) が一番多かった。次に、主任 11.8%(2 人)と続いた。他に、部長、医療法人理事、所長、支店長代理、主査が 5.9% (1 人) と続いた。

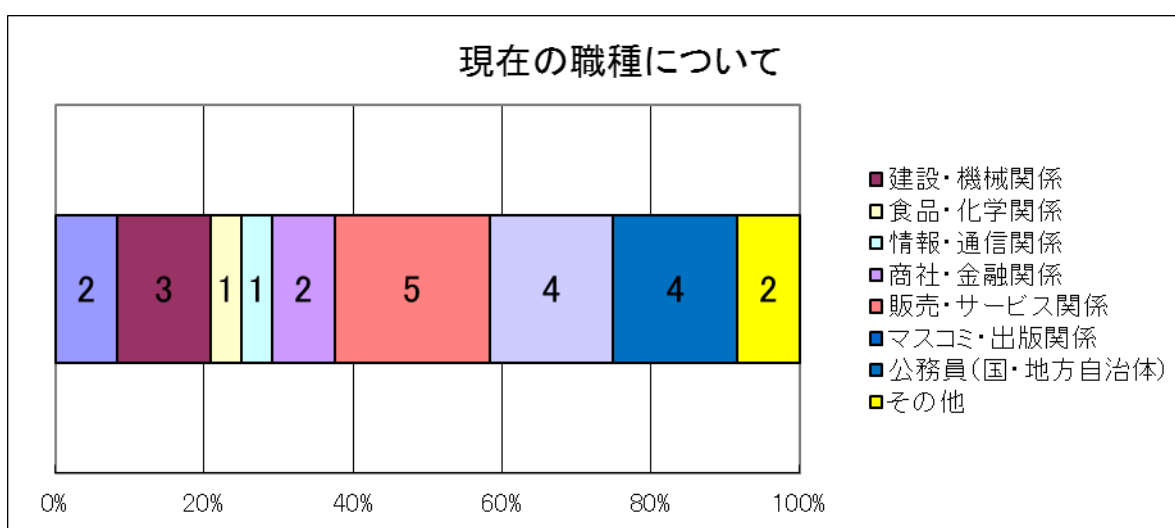


図 3. 現在の職種について

2. 分析

1. 在学当時の状況について

(1) 在学中の出席状況について（問 1）

在学中にどれだけ出席できたかを見してみる。全ての授業に出席した場合を 100%とし回答してもらったところ、平均 88.97%となる（図 4 を参照）。

前回アンケート調査(平成 24 年度修了生対象)では、88.96%であり、ほとんど変わっていない。

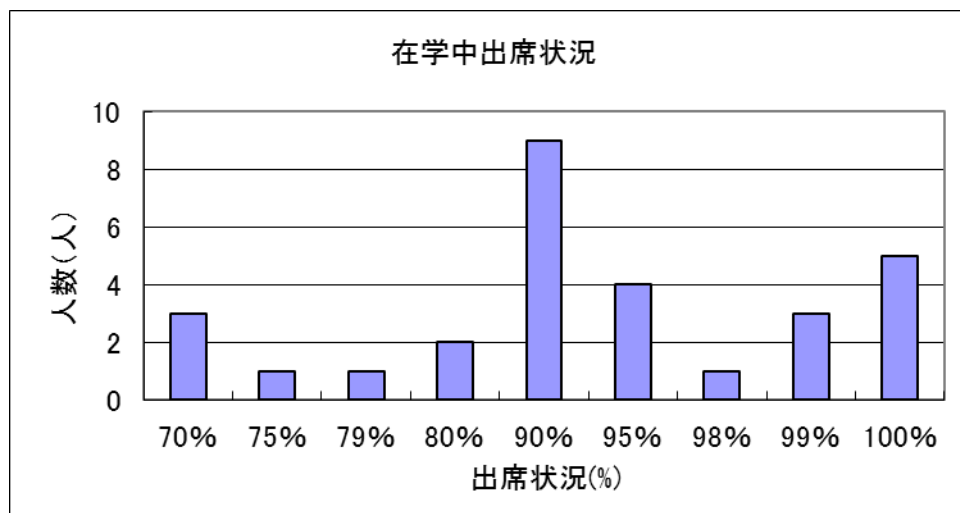


図 4. 在学中出席状況

(2) 在学中勉強時間（問 2）

在学中に週に勉強時間をどの程度、またどのように確保したのかを見してみると、平均、13.90 時間となる（図 5 を参照）。

前回アンケート調査(平成 24 年度修了生対象)では、10.38 時間であり、3 時間ほど増加している。

ただし、この質問では、勉強時間に授業時間を入れるかどうかを明記していなかったため、今後は質問を修正する必要がある。

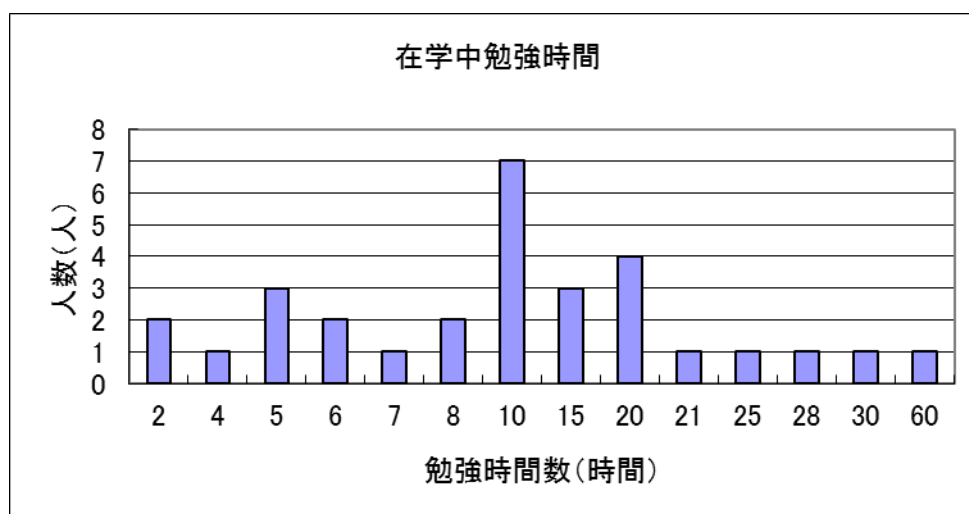


図 5. 在学中勉強時間

(3) 仕事で役立ったと思う科目（問 3）

仕事に役立ったと思う科目を見ると以下のようなになる。最大3つ答えているので、他の問よりも総数が多くなっている。

表1. 仕事の上で役立ったと思う科目

組織行動論	11	16.9%
プロジェクト研究	6	9.2%
人事管理論	6	9.2%
経営管理論	4	6.2%
統計分析	4	6.2%
マーケティング・マネジメント	3	4.6%
マネジメント・システム	3	4.6%
事業創造論	3	4.6%
ゲーム理論	2	3.1%
マーケティング・リサーチ	2	3.1%
意思決定分析	2	3.1%
経営リスク・マネジメント	2	3.1%
産業クラスター論	2	3.1%
四国経済事情	2	3.1%
地域経済分析	2	3.1%
アートと地域活性化	1	1.5%
アカウンティング	1	1.5%
イノベーション・マネジメント	1	1.5%
マーケティング戦略	1	1.5%
まちづくり論	1	1.5%
マネジメント・アカウンティング	1	1.5%
企業倫理	1	1.5%
経済学	1	1.5%
国際経営	1	1.5%
自治体財政政策	1	1.5%
費用便益分析	1	1.5%
全部	1	1.5%
総計	65	100.0%

(4) 仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目 (問4)

仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目を見ると以下のようなになる。この問も最大3つ答えているので、他の問よりも総数が多くなっている。

表2. 仕事とは関係なく役立ったと思う科目

組織行動論	6	11.1%
統計分析	5	9.3%
四国経済事情	4	7.4%
費用便益分析	3	5.6%
アートと地域活性化	2	3.7%
イノベーション・マネジメント	2	3.7%
ゲーム理論	2	3.7%
プロジェクト研究	2	3.7%
マーケティング・リサーチ	2	3.7%
国際経営	2	3.7%
四国経済事情（企業経営）	2	3.7%
事業創造論	2	3.7%
人事管理論	2	3.7%
地域経済分析	2	3.7%
デザイン・マネジメント	1	1.9%
マーケティング・マネジメント	1	1.9%
マーケティング戦略	1	1.9%
まちづくり論特殊講義	1	1.9%
意思決定分析	1	1.9%
経営リスク・マネジメント	1	1.9%
経済分析	1	1.9%
四国経済事情（資源）	1	1.9%
新産業政策	1	1.9%
生産マネジメント	1	1.9%
地域 ICT・マネジメント	1	1.9%
地域開発と資本市場の役割	1	1.9%
地域公共政策	1	1.9%
地域産業連関分析	1	1.9%
都市開発論	1	1.9%
全部	1	1.9%
総計	54	100.0%

（５）土曜日の開講について（問５）

社会人学生が多いこともあり、現在は土曜日も開講しているが、それについての回答が以下のようになる（図 6 を参照）。「必要」（76.7%）「ある程度必要」（23.3%）合計 100%となり、全員が必要であると回答した。

前回アンケート調査(平成 24 年度修了生対象)では、必要（80.8%）、ある程度必要（15.4%）合計 96.2%であり、土曜日開講の必要性が高まっている。

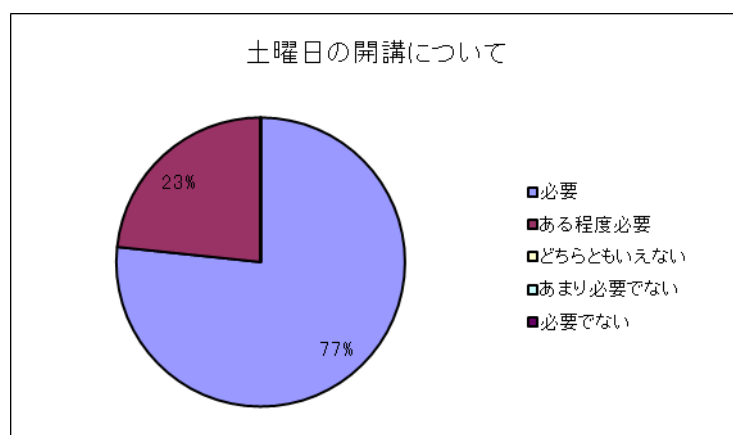


図 6. 土曜日の開講について

(6) プロジェクト研究について (問 6)

本研究科のカリキュラムの集大成となるプロジェクト研究について見てみると、「満足している」(33.3%) および「ある程度満足している」(46.7%) で合計 80.8%になる (図 7 を参照)。

前回アンケート調査(平成 24 年度修了生対象)では、「満足している」(19.2%) および「ある程度満足している」(53.8%) で合計 73.0%であったので、満足度は向上している。

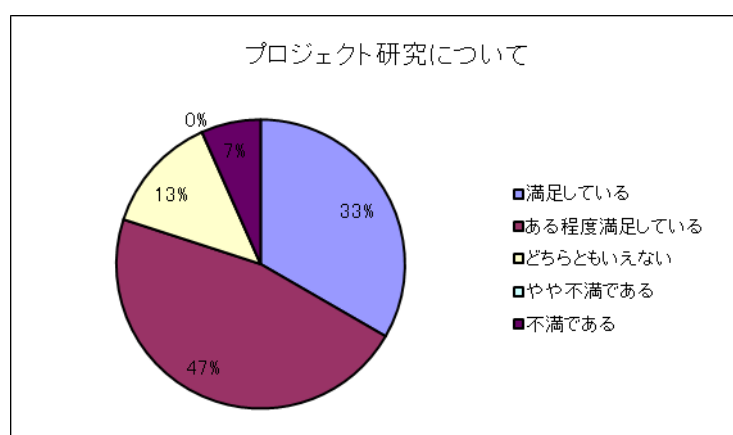


図 7. プロジェクト研究について

(7) 社会人組織、社会人組織以外からの支援について (問 7,8)

社会人学生に、社会人組織 (所属組織) からの支援ならびに社会人組織以外 (奨学金など) からの支援について見てみると、以下のような状況である (図 8 を参照)。

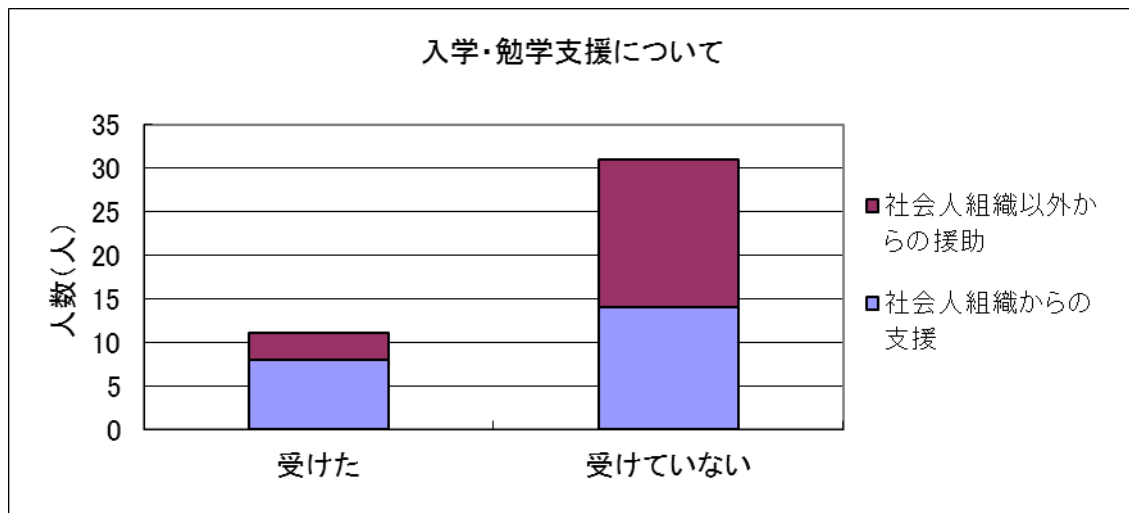


図 8. 入学・勉学支援について

(8) 学部学生の就職について (問 9)

学部からの進学生に、就職についての対応についての満足度を見てみることにする (図 9 を参照)。

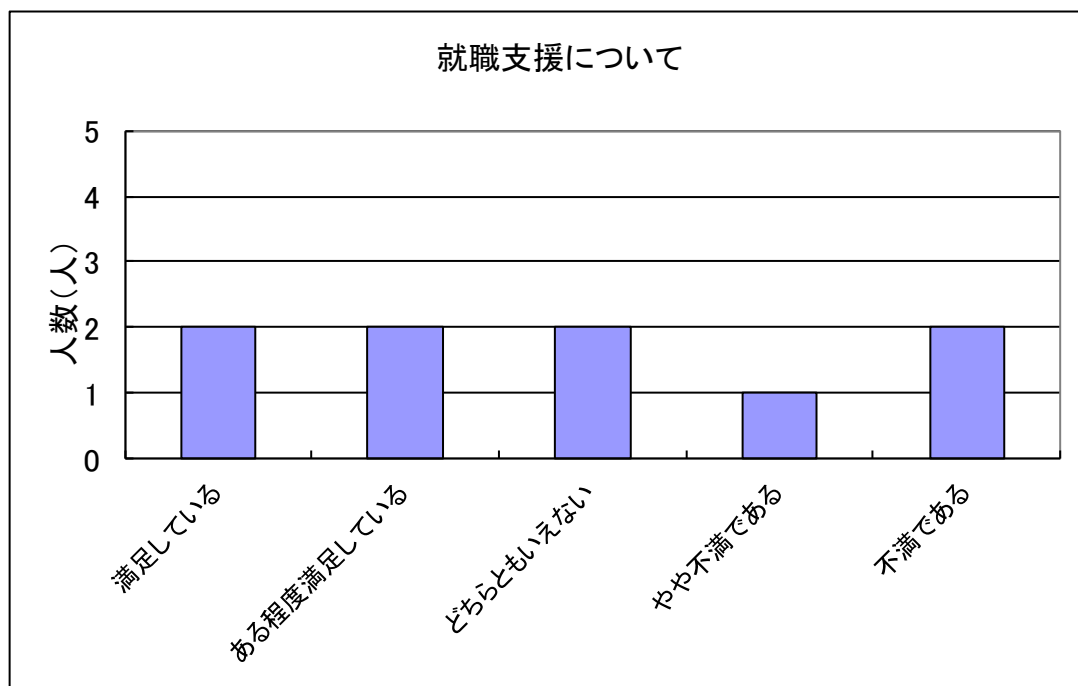


図 9. 就職支援について

(9) 自習室、教室の環境について (問 10、11)

自習室と教室の環境についての満足度を見てみることにすると、教室は「満足している」(33.3%)、「ある程度満足している」(56.7%)で合計が 90.0%となり、9 割が満足と回答している。自習室は「満足している」(30.0%)、「ある程度満足している」(60.0%)で合計が 90.0%となり、こちらも 9 割が満足と回答している (図 10 を参照)。

前回アンケート調査(平成 24 年度修了生対象)では、教室は合計 96.2%が満足、自習室は合計

65.4%が満足と回答しているので、自習室の満足度が向上していることが分かる。

自習室は、交友会館の耐震改修に伴い、平成23年9月～平成24年3月まで自習室が使用できず、又信記念館1回の演習室113,114教室を仮自習室として使用していた。今回の修了生は2年次から新自習室を使用できたため、前回より自習室に関する満足度が改善したと考えられる。

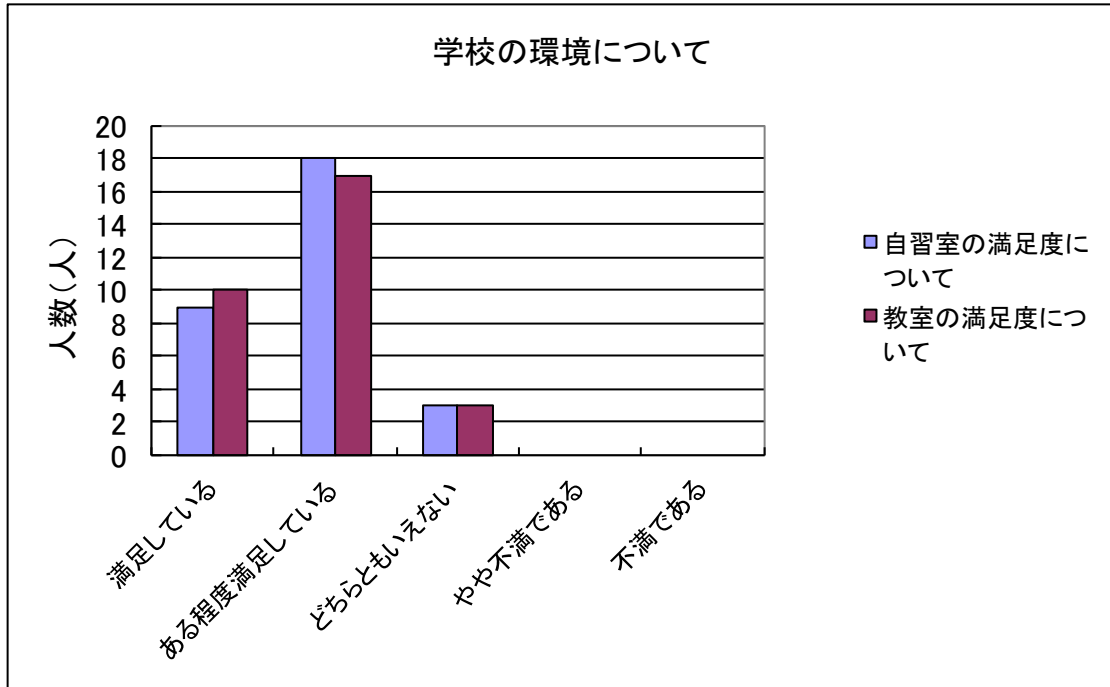


図 10. 学校の環境について

2. 修了後の効果について

(1) 大学院教育で身についた能力と現在の仕事に必要な能力 (問 12)

ここでは、19の能力について、大学院教育でどの程度身についたか、また現在の仕事でどの程度必要とされているかを、「身についた」「ある程度身についた」「どちらともいえない」「あまり身につけていない」「身につけていない」、「必要」「ある程度必要」「どちらともいえない」「あまり必要ない」「必要ない」の5段階で回答してもらった。

なお、大学院教育の項目の「身についた」から「身につけていない」までを、「5、4、3、2、1」の5段階に (図 11-1 を参照)、現在の仕事の項目の「必要」から「必要ない」までを、「5、4、3、2、1」の5段階で表示した (図 11-2 を参照)。

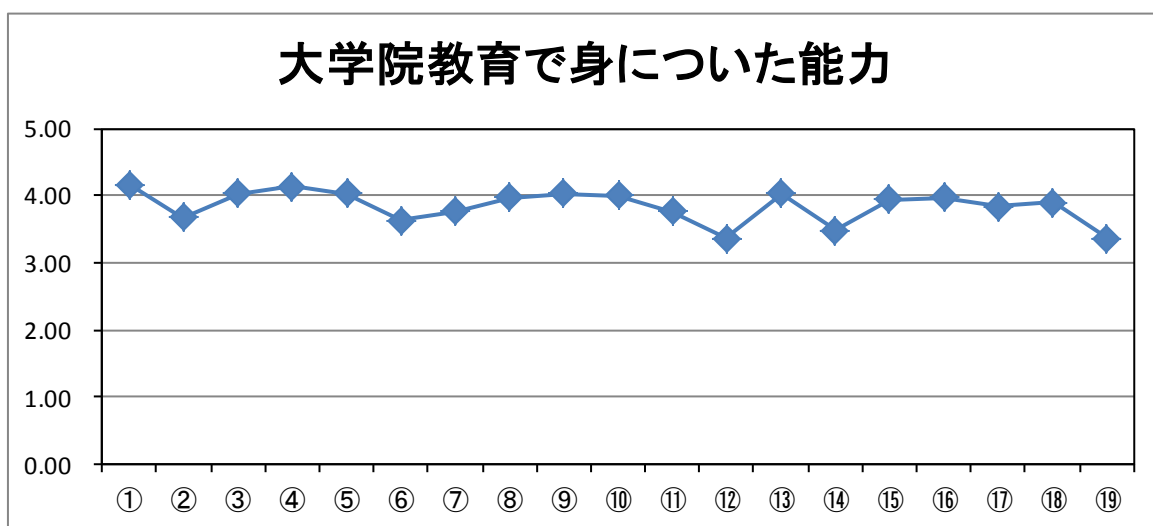


図 11-1. 大学院教育で身についた能力

表 3 大学院教育で身に付いた能力（平均点順）

		平均値	標準偏差
①	物事に進んで取り組む力	4.69	0.55
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4.69	0.55
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4.65	0.56
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	4.62	0.64
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	4.62	0.57
②	他人に働きかけ巻き込む力	4.58	0.81
③	目標を設定し確実に行動する力	4.58	0.64
⑥	新しい価値を生み出す力	4.58	0.58
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	4.54	0.65
⑭	専門分野に関する知識や技能	4.52	0.65
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.46	0.71
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	4.46	0.71
⑯	文書等を作成する力	4.46	0.90
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4.42	0.70
⑬	幅広い知識や教養	4.35	0.85
⑱	プレゼンテーションする力	4.27	1.04
⑰	ディスカッションする力	4.23	1.11
⑱	リーダーシップ	4.19	0.98
⑫	ストレスの発生源に対応する力	4.15	0.78

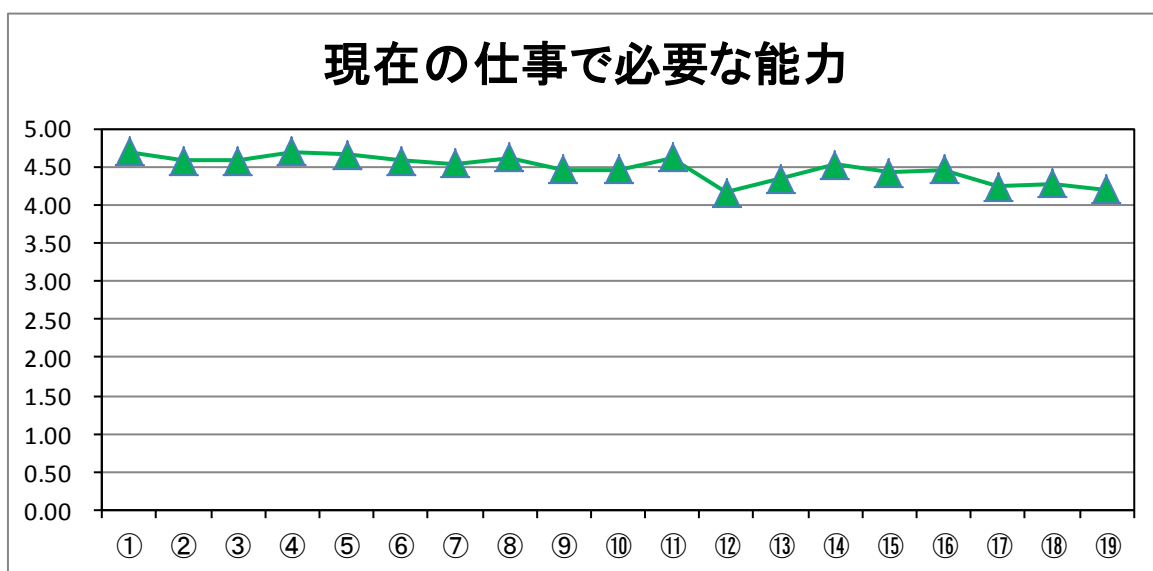


図 11-2. 現在の仕事で必要な能力

表 4 現在の仕事で必要な能力（平均点順）

		平均値	標準偏差
①	物事に進んで取り組む力	4.69	0.55
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4.69	0.55
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4.65	0.56
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	4.62	0.64
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	4.62	0.57
②	他人に働きかけ巻き込む力	4.58	0.81
③	目標を設定し確実に行動する力	4.58	0.64
⑥	新しい価値を生み出す力	4.58	0.58
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	4.54	0.65
⑭	専門分野に関する知識や技能	4.52	0.65
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.46	0.71
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	4.46	0.71
⑯	文書等を作成する力	4.46	0.90
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4.42	0.70
⑬	幅広い知識や教養	4.35	0.85
⑱	プレゼンテーションする力	4.27	1.04
⑰	ディスカッションする力	4.23	1.11
⑲	リーダーシップ	4.19	0.98
⑫	ストレスの発生源に対応する力	4.15	0.78

表5 「大学院教育で身に付いた能力」と「現在の仕事で必要な能力」の順位差

		身についた能力	仕事で必要な能力	順位差※
①	物事に進んで取り組む力	1	1	0
②	他人に働きかけ巻き込む力	15	1	-14
③	目標を設定し確実に行動する力	3	3	0
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	2	4	2
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	3	4	1
⑥	新しい価値を生み出す力	16	6	-10
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	13	6	-7
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	8	6	-2
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	3	9	6
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	7	10	3
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	13	11	-2
⑫	ストレスの発生源に対応する力	18	11	-7
⑬	幅広い知識や教養	3	11	8
⑭	専門分野に関する知識や技能	17	14	-3
⑮	論理的に考え、物事を進める力	10	15	5
⑯	文書等を作成する力	8	16	8
⑰	ディスカッションする力	12	17	5
⑱	プレゼンテーションする力	11	18	7
⑲	リーダーシップ	18	19	1

※順位差は、現在の仕事で必要な能力(順位)－大学院教育で身に付いた能力(順位)

(2) 学んだことに満足しているかについて (問 13)

ここでは、総合的にみて、研究科で学んだことについて満足しているかについて見てみると、「満足している」(36.7%)、「ある程度満足している」(50.0%) 合計が 86.7%であり、ある程度の満足度が得られている (図 12 を参照)。

前回アンケート調査(平成 24 年度修了生対象)は、「満足している」(53.8%)、「ある程度満足している」(42.3%) 合計が 96.2%であり、満足度が約 10%低下していることが分かる。

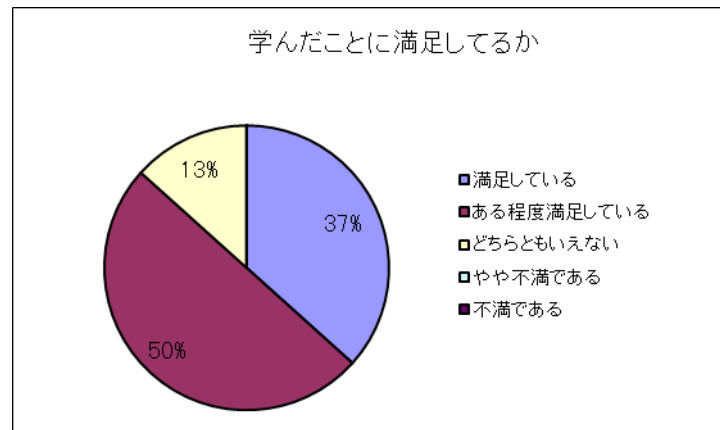


図 12. 学んだことに満足しているか

(3) 愛着について (問 14)

研究科に愛着があるかどうかを見てみると、「非常にある」(30.0%)、「ある程度ある」(60.0%)で合計 90.0%となり、「愛着がある」という回答が約 9 割であった (図 13 を参照)。前回アンケート調査(平成 24 年度修了生対象)の 92.3%とほとんど変わっていない。愛着を持っている人が非常に多い。

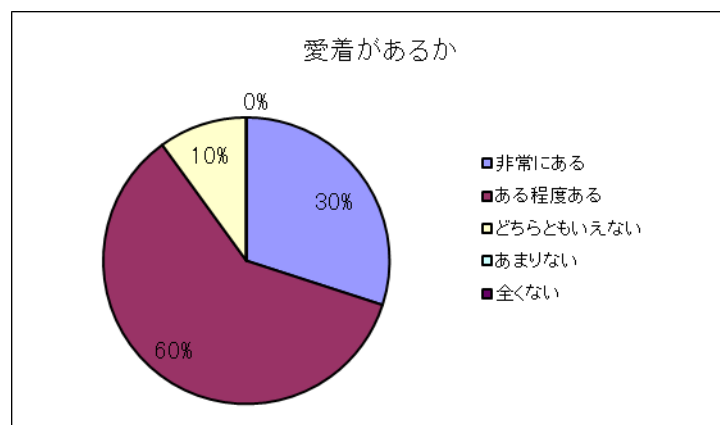


図 13. 愛着があるか

3. 現在の状況について

(1) 自己研修について (問 16)

能力向上のため、何か自己研修を行っているかを見てみると、行っている人・予定している人(60.7%)と行っていない人(39.3%)と回答は、2 分された (図 14 を参照)。終了直後の調査であるので、予定している人が多くなっている。

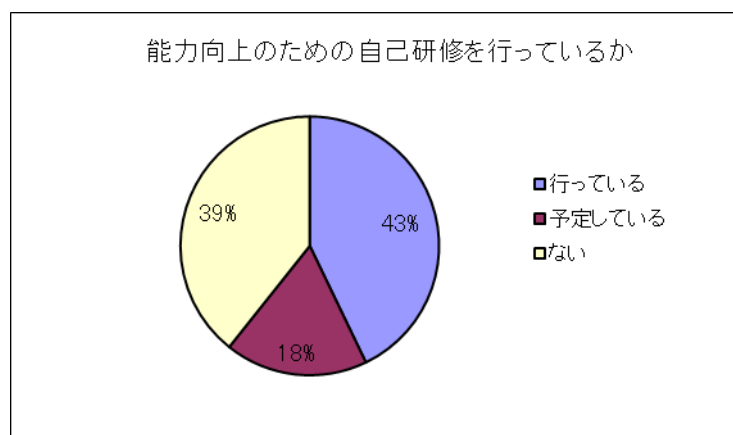


図 14. 能力向上のための自己研修を行っているか

(2) 地域活動について (問 17)

個人あるいはグループで地域のための活動を行っているかを見てみると、約 4 割が地域のための活動を行っているかその予定であると回答した (図 15 を参照)。

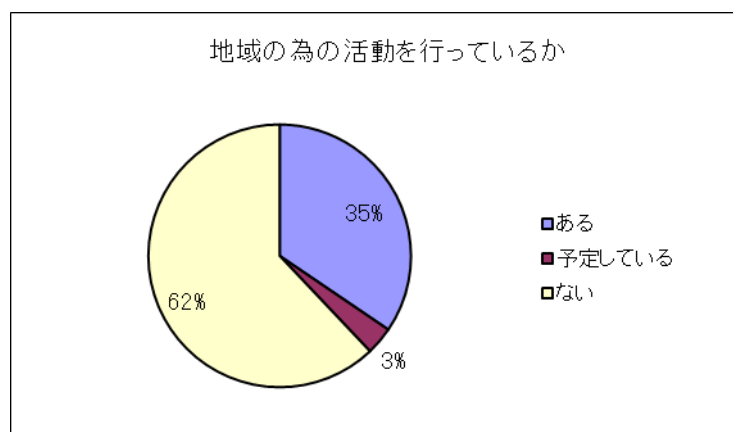


図 15. 地域の為の活動を行っているか

(3) 研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて (問 18,19)

研究科で開催した講演会・シンポジウムなどに参加しようと思うかについて見てみると、100%が参加を希望している (図 16 を参照)。

さらに、研究科で開催する講演会・シンポジウムはどのような形がよいと思うかについて見てみると、対象を限定しない「一般公開」が 96.6%と多い (図 17 を参照)。

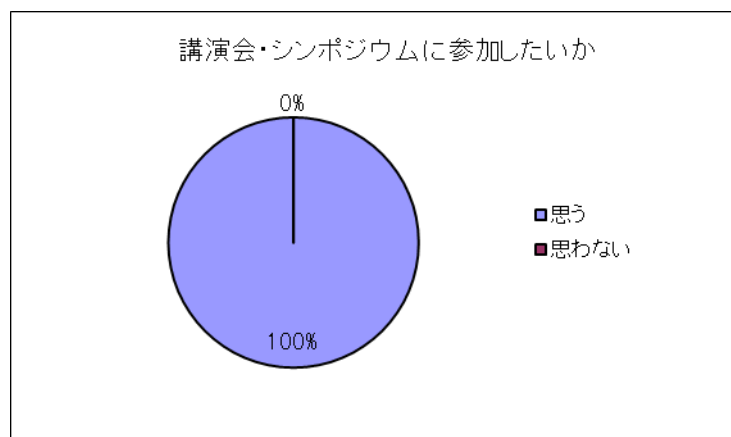


図 16. 講演会・シンポジウムに参加したいか

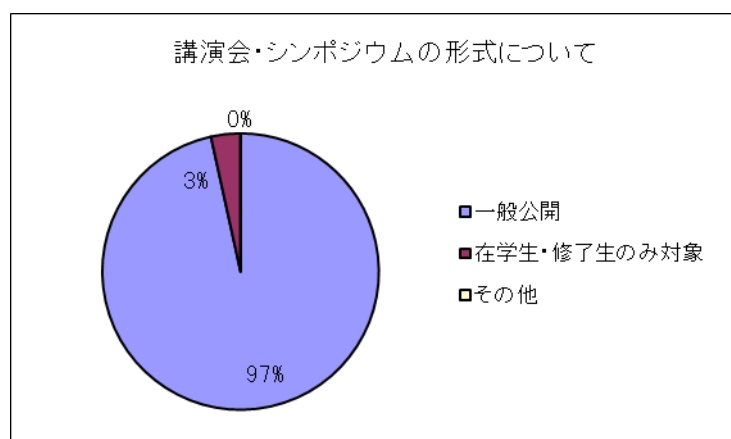


図 17. 講演会・シンポジウムの形式について

(4) 後期（10月）入学の必要性について（問 20）

研究科に、後期（10月）入学が必要かどうかについて見てみると、「非常に必要」（13.3%）や「ある程度必要」（20.0%）は、多くはない（図 18 を参照）。

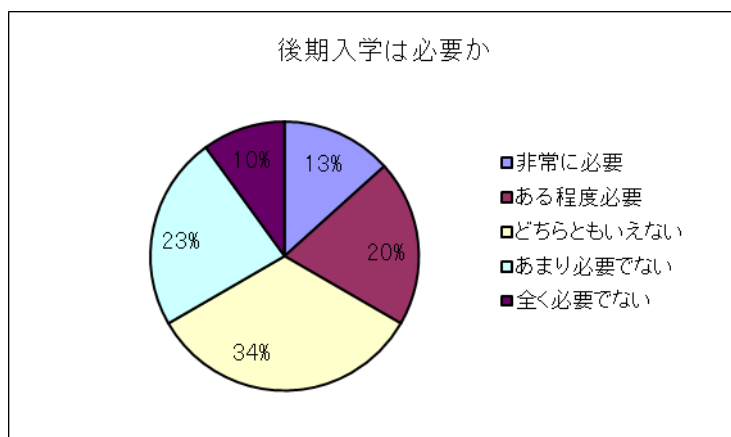


図 18. 後期入学の必要性について